

## 令和2年度 芦別市一般会計予算概要

令和2年度は、今後10年の新たなまちづくりの羅針盤となる「第6次芦別市総合計画」の初年度として、目指す将来の都市像「みんなで築く 豊かで 住みよい 人と文化の輝くまち」の実現に向け着実な歩みを期すと同時に、本年度がその第一歩となるよう、計画に掲げる分野別施策の推進とともに、私も市長任期最期となる年度から、総仕上げの予算として位置付けながら予算編成に意を用いたところです。

また、人口減少への対応や地域経済の活性化に向けた中長期の展望を示す、「第2期芦別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進を図り、各産業における安定した雇用の確保、新しい人の流れの創出、若い世代への結婚・出産・子育てへの支援、時代にあった地域づくり、安心な暮らしづくりと地域連携を主眼とする具体的な施策の展開に必要な予算を盛り込んだところです。

このことから、令和2年度予算を「未来志向・リスタート（再出発）予算」と銘を打たせていただきました。

この結果、令和2年度の一般会計、特別会計及び企業会計を合わせた芦別市の予算総額は、183億5,139万1千円となり、前年度当初予算との対比では、6億6,285万4千円、3.5%の減少となっております。

このうち、一般会計予算の主な内容について、「第6次芦別市総合計画」の分野別に掲げますと、

## 1 「市民とともに歩む協働のまち」に係る施策の推進として

- ・ 情報共有・市民参加と協働の促進
- ・ 事務効率化に向けたRPA※（ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入 ※RPA：ロボットによる業務の自動化
- ・ 地域おこし協力隊の増員 【総合戦略事業】
- ・ 持ち家取得奨励金制度の充実 【総合戦略事業】
- ・ 星の降る里あしべつ応援大使の活用 【総合戦略事業】
- ・ 中空知広域市町村圏組合をはじめとした広域連携の推進
- ・ 性的少数者（LGBT）に配慮するための住民基本台帳システム改修

## 2 「豊かな自然と共生する安全・安心なまち」に係る施策の推進として

- ・ 橋りょう長寿命化計画に基づく橋りょう整備事業
- ・ 空き家等対策事業
- ・ すみれ団地建替事業及びことぶき団地建替事業
- ・ 上金剛山周辺散策路の整備
- ・ 備蓄計画に基づく備蓄品の整備及び防災ガイドブックの作成
- ・ 防災訓練の実施
- ・ 芦別市強靱化計画策定

### 3 「地域の資源や特性を活かした産業が進展するまち」に係る施策の推進として

- ・ 新規就農者等に対する各種助成による担い手確保 【総合戦略事業】
- ・ 農業機械の実演等によるスマート農業推進事業 【総合戦略事業】
- ・ 道立北の森づくり専門学院への支援 【総合戦略事業】
- ・ 企業振興奨励金等の補助制度による中小企業支援 【総合戦略事業】
- ・ ふるさと就職奨励金 【総合戦略事業】
- ・ 大学生等を対象とした市内企業見学会の開催 【総合戦略事業】
- ・ 求人情報サイトの開設・運営 【総合戦略事業】
- ・ 道の駅屋外公衆トイレ改修事業

### 4 「ひとに優しい、ふれあいと温もりのあるまち」に係る施策の推進として

- ・ 妊産婦安心出産支援事業による通院交通費の助成
- ・ 特定不妊治療費の助成 【総合戦略事業】
- ・ がん検診の無料化による予防対策の充実
- ・ ロタウィルス予防接種の実施
- ・ 後期高齢者健康診査の見直し
- ・ 幼児教育・保育無償化に伴う負担金対応
- ・ 特定教育・保育施設多子世帯副食費の助成

### 5 「地域とともに、学ぶよろこびを実感できるまち」に係る施策の推進として

- ・ コミュニティスクールの推進

- ・ 中学校情報化推進事業（ICT整備）
- ・ 学校給食センター整備事業
- ・ 芦別高等学校入学生のうち市内に住所を有する保護者に対する修学奨励費助成金の交付
- ・ 修学奨励金交付事業等による私立学校の学生確保を支援
- ・ 宿泊交流センター整備事業

などとなっております、

これらの結果、一般会計予算の総額は、107億2,100万円で、前年度当初予算との対比では、2億6,500万円、2.4%の減少となりました。

歳出につきましては、経常費が95億7,577万3千円

（構成比89.3%）で、会計年度任用職員制度への移行に伴う報酬等、ふるさと納税に要する感謝特典報奨金などの経費、PCB廃棄物処分業務委託料などが増加する一方、生活保護扶助費、介護サービス事業特別会計への繰出金、人件費の独自削減による職員給与に要する経費の減少などにより、前年度当初予算対比で1億3,342万2千円、1.4%の減少となりました。

事業費は、11億4,522万7千円（構成比10.7%）で、宿泊交流

センター整備事業、道の駅屋外公衆トイレ改修事業、地方債制度の期限に対応するための道路維持・改良事業、公営住宅建替事業などが増加する一方、星遊館改修事業、駅前広場整備事業、市総合庁舎非常用電源設置事業などが減少したことから、前年度当初予算対比で1億3,157万8千円、10.3%の減少となりました。

なお、現在検討を進めている市総合庁舎整備に係る関連経費につきましては、市民や議員皆さんとの議論などを踏まえ、別途対応を図ることとします。

歳入につきましては、ふるさと応援寄附金、幼児教育・保育の無償化に伴う国庫及び道支出金、道路新設改良整備事業債などが増加する一方、市税が市民税（個人）や市たばこ税などの減少が見込まれることから、前年度当初予算対比2,580万4千円、1.8%の減少に加え、星遊館改修事業に係る観光施設整備事業債、生活保護費国庫負担金、特定目的基金からの繰入金が増加したことにより、前年度当初予算対比で2億6,500万円、2.4%の増加となりました。

普通交付税につきましては、令和元年度の交付決定額に地方財政計画の伸び率等を勘案し、前年度当初予算対比で4,200万円増加の40億4,800万円を見込んだところでありますが、臨時財政対策債につきましては、前年度当初予算対比で5,200万円、21.9%減少の

1億8,500万円を見込み、これらを合計した実質的な普通交付税の総額は、42億3,300万円で、前年度当初予算対比で1千万円、0.2%の減少となりました。

なお、歳入が歳出に対して不足する額は6,624万1千円となり、全額財政調整基金を繰り入れて収支の均衡を図ったところではありますが、財政調整基金の繰入額につきましては、前年度当初予算対比で9,653万3千円、59.3%の減少となりました。

このことは、会計年度任用職員制度への移行、消費増税に伴う幼児教育・保育の無償化や低所得者に対する介護保険料の軽減措置などが要因となって歳出の増加が見込まれる中、ふるさと応援寄附金などの歳入の増加によるところもありますが、各種施策補助金の見直し、公共施設の統廃合、職員人件費の独自削減などの行財政改革の取組効果が、実質的に令和2年度から発揮されることによるものであります。

芦別市の置かれた現状は、人口減少社会と地域経済の縮小の波にいかに対峙していくかが、直面する課題であります。これに臆することなく、むしろ真正面から受け止めながら、先人たちが築き上げてこられた「ふるさと芦別」を、次代へしっかり引き継ぎ、将来にわたって責任ある行政サービスと

持続可能な行政運営のため、引き続き行財政改革に取り組みながら、「改革と成長」をキーワードに「縮充と連携」の視点をもって、本市に「住み、働き、学び、訪れる」方々が活躍の場と生きがいや幸せを実感できるようまちづくりを推進してまいります。